

お話のせかいに入って音読げきをしよう

「お手紙」

アーノルド・ローベル作

めあて

やくわり読みをしながら、がまくんとかえるくんの  
気持ちを考えよう。

【三の場面後半】 本文掲示

「かえるくん、どうして、きみ、ずっと まどの外を見ているの。」

※本文書き込みの例(児童の取り上げた文章の横に、発言内容を  
書きこんでいきます。)

○ 「なにをどつぜん言ってるんだよ。」

○ 「でも、来やしないよ。」

○ がまくん、よろこんでくれて、本当によかった。

○ 「ああ。」

早く読みたいなあ。かえるくん、やさしいな。

・ ふたりとも、とても しあわせな気持ちで、そこにすわっていました。

長いこと まっていました。

がまくん・・・あきらめ↓しあわせ

「きみが。」「ああ。」「とても いいお手紙だ。」

かえるくん・・・うれしい・しあわせ

【分かったこと・できたこと】

・ がまくんの気持ちがかわるようすが分かった。  
・ 「ああ」の読み方は、みじかいけど気持ちこめて音読しなければいけないということが分かった。

【6 / 11時間目 指導略案】 使用するワークシート(三の場面後半)  
活動のねらい

登場人物の会話や行動から場面の様子を想像し、音読に生かすことができるようにする。

1 本時のめあてを知る。

○ 学級に掲示している学習計画で本時の学習内容を確認させる。  
※ これまでの振り返りで、会話文、行動、挿絵から場面の様子を想像することを確認させます。

2 三の場面後半の役割読みをすることで、だれの会話文かを確認する。

○ 会話文の上に赤(がまくん)と緑(かえる)で○を付けながら確認させる。  
※ 児童が誰の会話文か理解している場合は、役割読みをすることで確認します。

評価 誰の言った会話文かを理解しながら読んでいます。

(ウー1)

3 登場人物の気持ちが分かる文章をワークシートに抜き書き、その時の気持ちを考えさせる。

○ 登場人物の気持ちを会話や行動から考えさせる。  
○ 【個人】↓【少数】↓【全体】の流れは前時と同じです。

※ がまくんの気持ちが変わっていく様子を、文章や挿絵(を一の場面と比較)から確認していきます。  
「でも、来やしないよ。」 ↓ 「きみが。」「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」

※ 人物の様子については、行動や会話から次のようにまとめます。

・ がまくん・・・お手紙が届くことを知り、幸せな気持ちになった。  
・ かえるくん・・・がまくんが幸せな気持ちになってくれて同じように幸せ。嬉しい。

4 読み取ったことを基に、三の場面後半を音読する。

○ 役割を決めて、それぞれの人物になりきって音読をさせる。

※ 前時に学習したこと(気持ちをこめて・動作化)を踏まえて音読することを確認させます。  
※ 人物の気持ちに分かる部分には、顔マーク(ハ)等を加えながら練習させます。

※ 上手に音読している児童を教師が紹介します。そして、どの文章表現からそのような工夫しようと考えたのかを引き出し、人物の気持ちや場面の様子への理解を深めさせます。

評価 二人の心が通い合っていく様子を読み取っている。

(イー1)

5 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しをもつ。

○ 役になりきったり簡単な動作を入れたりしながら読むと、場面の様子がよくわかることをワークシートの振り返りで確認させる。

○ 次時は、四の場面を読んでいくことを確認する。